

探鳥会報告 2014

【目的】 野鳥の生息状況を調査する

【調査地域】 裏磐梯地区

【結果・考察】

冬 探鳥の記録を取って以来、冬鳥の飛来は今までになく多くの種類と数が見られた。この冬はえさの木の実が種類や量が豊富な為であったと思われる。

特筆すべきはキハダの実を食べるオオマシコの姿を1ヶ月近く確認出来た事であった。

3月中旬から4月の初旬にかけ北帰行のアトリの大群、数千羽を確認出来た。

春・夏 例年通り夏鳥が入り始め5月の連休にはキビタキやオオルリなどが一気にそろった。カッコウ、ホトトギスの仲間は例年より2、3日遅い初確認でした。

夏鳥の繁殖状況は例年並と思われた。

関東からの北帰行の途中のレンジャクやノゴマが5月中旬に確認出来きた。

以前はあまり見られなかったニューナイスズメが繁殖し裏磐梯のいたるところで見られる様になった。又5年前にはなかなか見られなかったキバシリも繁殖し見られる様になった。

磐梯山の噴火後130年経つと草原が減り、オオジシギの生息域が狭まっている様に思われる。

今年のアカショウビンの確認は5月27日で個体数は少しづつ増えているようである。7年連続で裏磐梯に飛来していた個体が確認出来た。

8月30日に冬鳥のマヒワが確認出来た。繁殖していたのか早く渡ってきたのかは不明である。

秋 例年だと秋の渡りのエゾビタキ、サメビタキが今年は確認出来なかった。原因として主なるえさのミズキの実が不作だった為と思われる。

今年の木の実の状況は去年の大豊作から比べるとかなり少なく、冬鳥の飛来数の減少が心配される。

レンジャクは10月末から飛来し始めたが少ないカンボクの実をほぼ食べ尽くし、12月中旬には通り抜けた様に思われる。カツラの実が豊作のためウソやハギマシコなどはひと冬を通してみる事が出来た。

一般的な冬鳥のマヒワの大きな群れが見られ、その中にベニヒワが小数混ざっていた。

【概要】

(1) 調査実施日

- ※第1回 平成26年 3月26日
- ※第2回 平成26年 4月 8日
- ※第3回 平成26年 5月17日
- ※第4回 平成26年11月28日
- ※第5回 平成27年 1月15日

(2) 調査者

裏磐梯エナガの会